

## 全体講評

今年は、全体で 215 件の応募があり、統計解析のテーマが多い傾向にありました。全体的なレベルも高くなり、テーマの対象や方法についても実に多様なテーマの応募がありました。

分析の対象としては、エスカレーター片側歩行などの最近の時流に乗ったテーマや、電化製品の消費電力の比較などの環境問題に関連する日常生活のテーマ、スポーツの勝利の条件を分析したテーマなどがありました。夕食のちりめんご飯から着想を得たテーマなど、実用とは離れていても発想が大変ユニークで面白いテーマもありました。物理的なテーマとしては、フーリエ解析を駆使したテーマや音声認識に関するテーマ、水滴の気泡音に関するテーマなどがありました。また、どんぐりの転がり方のばらつきがいかんして発生するかを追求した統計学の本質に関わるようなテーマもありました。さらに、過去の受賞作品の内容を引き継いでさらに発展させるテーマもありました。

方法論に関しては、暖房器具や乗り物、傘の携帯に関わるような最適化を目指したテーマ、主成分分析などの高度な統計的手法を駆使したテーマ、小説の分析にテキストマイニングを用いたテーマなどがありました。このようにテーマの多様化と方法論の高度化がどちらも進展しており、大変望ましいと思われま

す。研究の進め方につきましては、選んだ対象に深い興味を抱くことと、データや分析結果を徹底的に観察することの二つが重要です。最初の実験や分析はあくまで出発点で、目的のための絞り込みであると認識し、得られた結果を徹底的に見ることで、次の仮説を立ててさらに実験や分析を繰り返していくことがとても重要です。高度なツールを使う場合は、それだけで満足してしまい十分データを見ていないときが往々にしてありますので、ツールに溺れず、データをきちんと見るのが重要です。また、想定外の結果を大事にすることも重要です。想定外の結果は新しい発見や展開につながる場合がよくありますので、偏見を持たずに注意深く観察することが重要です。徹底的に見るためには、対象に対して深い興味を持つことが大きな動機となりますので、日ごろから様々な事象に対して疑問や興味を持つ「くせ」を是非つけてもらえたらと思います。